

木全 貴久 氏 学位審査結果の要旨

主査：野村 昌作

副査：中邨 智之、塩島 一朗

特発性ネフローゼ症候群（Nephrotic Syndrome : NS）は、ほとんどの症例がステロイドに反応するが、1部の患者では再発を繰り返す。近年、このような難治性ステロイド依存性 NS (SDNS)患者に対してリツキシマブ（rituximab : RTX）の有用性が報告されている。しかし、RTX の適応や有効性と安全性のバランスのとれた投与方法は未だ確立していない。申請者(木全貴久)は、RTX の初回寛解導入療法後、B 細胞が回復する 3 か月毎に RTX を反復投与して末梢血 B 細胞数の枯渇状態を維持することで SDNS の長期寛解が得られると考え検討を行った。対象は、各種免疫抑制薬に反応不良な SDNS 5 例である。RTX を 3 か月毎に 4 回反復投与を施行後、すべての患者がステロイドを中止でき、再発の頻度が大幅に減少した。また、ステロイドフリーの期間が大幅に延長され、平均ステロイド投与量は有意に減少した。本研究の結果から、B 細胞の回復時期に RTX を反復投与する方法は、小児の SDNS に対する長期寛解維持に有用な治療選択肢であることが判明した。以上より、本研究は学位に充分値すると判断した。